

シンポジウム 「多摩川におけるカワラノギクの野生絶滅をめぐる」のお誘い

多摩川におけるカワラノギクの野生個体群は 2019 年 10 月の洪水で流失し、種子の寿命の短いカワラノギクは多摩川では「野生絶滅」状態となりました。再生活動は 1986 年に立川市の三田鶴吉さんと鈴木功さんによって試みられて以来、10 か所余りで行われてきました。残念なことに人の手による助けなしに生育しているカワラノギクは多摩川では見られなくなってしまいました。

かつて 1960 年代までカワラノギクは雲のように咲いていたそうです。その状況を取り戻すには長い時間をかけて多摩川の自然を再生するとともにカワラノギクの保全・再生活動を続ける必要があります。そこで、多くの方と現状に対する認識を共有して、若い方々にも関心を持っていただくことを目的に、下記のようなシンポジウムを企画しました。

日時；2023 年 2 月 25 日（土）13 時 15 分～15 時 45 分

場所；国立商協ビルさくらホール（国立駅南口 3 分、国立市市東 1 丁目 4 - 6 国立商協ビル 2 階）

次第；司会 伊東静一（重点研究メンバー）

メッセージ 国土交通省京浜河川事務所、福生市役所、自然環境アカデミー（予定）

1. 都道府県版レッドリストと地域絶滅 内山香（東京都環境局自然環境部）
2. コシガヤホシクサの絶滅と野生復帰 田中法生（国立科学博物館）
3. 多摩川の堤防の改修と貴重種の保全 仙仁径（多摩市文化振興財団（パルテノン多摩））
4. 多摩川におけるカワラノギクの野生絶滅
 - 1) カワラノギクプロジェクトによる調査 岡田久子（重点研究メンバー）
 - 2) 種子を食べる昆虫ツツミノガ属の一種の絶滅 倉本宣（重点研究メンバー／オンライン参加）
 - 3) 生育地の環境を取り戻すために 知花武佳（重点研究メンバー／東京大学、オンライン参加）
5. 礫河原を主なハビタットとしている種の保全に取り組んでいる方からひと言
6. 総合討論 礫河原保全・再生のブレークスルーをめざして

募集；会場 60 名、zoom 100 名

主催 明治大学重点研究多摩川研究グループ

「生物多様性と防災を目的とする多摩川河川空間再編のための基礎的研究」

申し込みは Peatix（カワラノギクで検索）

問い合わせは eco@meiji.ac.jp

〒214-8571 川崎市多摩区東三田 1-1-1 明治大学農学部 倉本 宣

